潮騒
第44号
平成29年
8月1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四-五
海事センタービル
電話 〇三-三二三四-〇六六二
FAX 〇三-三二三四-〇六八二

海見ゆる鎮魂の碑に集う

第47回戦没・殉職船員追悼式

観音崎公園

戦没・殉職船員６万3,612名の御霊の鎮魂を祈念して黙とうを捧げる

第47回を迎えた戦没・殉職船員追悼式は5月11日（木）、ここ数年続いている初夏を思わせる晴天と強い日差しの中、横須賀市の神奈川県立観音崎公園の丘陵から、浦賀水道よりはるか彼方の太平洋を望む鎮魂の碑「戦没船員の碑」の前で、全国から来られたご遺族をはじめ立法および行政の関係者、海事関係団体ならびに業界代表者ら約５００人の参列者が集い、例年通り盛大に執り行われた。

式典に先立ち、海上自衛隊横須賀音楽隊による「真白き富士の嶺」「椰子の実」「千の風になって」の曲が、おごそかに演奏されると、参列者は静かに聴き入った。

式典は午前11時にはじまり、国家斉唱、黙とうに続き、会長式辞、内閣総理大臣追悼の辞が捧げられた。

海上自衛隊横須賀音楽隊による、海に殉じた人々へのレクイエム（鎮魂曲）『君は帰る母なる海へ』が演奏される中、会長、遺族代表、海事振興連盟、各界代表に続いて参列者全員が白菊を供え、今なお海深く眠る戦没・殉職船員の御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を願って、祈りを捧げた。

眼下の浦賀水道を行き交う船を望む式場で、観世一門による能楽「海霊」が奉納された。

練習船「銀河丸」船上慰霊行事

慰霊式実施海域

銀河丸　6,185総トン

日本殉職船員顕彰会と独立行政法人海技教育機構（JMETS）は、共同で練習船「銀河丸船上慰霊式」を行います。

本年８月５日、海技教育機構（JMETS）の練習船「銀河丸」が横浜からシンガポールに向けて、実習生165人を乗せて遠洋航海に出航します。この航海の途中に太平洋戦争の激戦海域であり、先の大戦で犠牲となった多くの船員の御霊が眠る南シナ海を通航します。

海洋国家日本の繁栄の礎となった戦没船員への哀悼の意を表するとともに不戦の誓いをあらたにするため、「船上慰霊式」を行い、献花、献酒を捧げ、ご遺族の皆様からお預かりした「お手紙」を海に手向けます。（お手紙の募集は、７月31日をもって締め切りました。）

「銀河丸船上慰霊式」は３カ所の海域で実施し、９月４日大阪港に帰港する予定です。

ご遺族の皆様からお預かりしたお手紙は、８月５日の出港式で熊田公信銀河丸船長に託します。「銀河丸船上慰霊式」実施状況は「潮騒」45号（平成30年新年号）で報告します。

波静かなれ　とこしえに

第47回戦没・殉職船員追悼式

観音崎公園

式典は、真夏を思わせる強い日差しが照りつける、横須賀市観音崎の戦没船員の碑で、開式の辞に続いて国歌斉唱の後、「国の鎮め」の演奏にあわせ、戦没・殉職船員6万3612名の鎮魂と永久の平和を祈念して黙とうを捧げた。

顕彰会を代表して、芦田昭充会長が式辞を、国を代表して内閣総理大臣追悼の辞を国土交通省の永松健次海事局次長が代読した。

◎式辞

芦田昭充会長

本日ここに、第47回戦没・殉職船員追悼式を執り行うにあたり、全国各地から斯くも多くの、ご遺族をはじめ関係者の方々のご参列を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

本年もまた、戦没船員の碑にあらたに殉職船員一人の名簿を奉安いたしました。これにより先の大戦で犠牲となった戦没船員　6万643人と、海難などにより殉職された船員2千969人の尊い御霊が、安らかに眠っておられます。

ここにあらためて、深く哀悼の誠を捧げるとともに、かけがえのない肉親を失い、言い知れぬ苦難の日々を送ってこられた、ご遺族の方々の労苦と心情に思いをいたし、心から敬意を表するものであります。

今日、幾多の困難を克服し、海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、志半ばで海に散った戦没船員と、わが国の復興を支えた、海運・水産業で、不幸にしてその職に殉じられた船員の尊い犠牲のうえにあることを決して忘れてはなりません。

私たちは、この碑を建立した原点に立ち返り、戦争の悲惨さを後世に伝えるとともに、戦没・殉職船員の御霊の慰霊・顕彰と海洋国家日本の永久（とこしえ）の平和と安全を祈念していくことを、ここにお誓いいたします。

安らかにねむれ　わが友よ
波静かなれ　とこしえに

この碑に刻まれた言葉を、ご参列いただいた皆様とともに御霊へ捧げ、本会を代表しての式辞といたします。

◎内閣総理大臣追悼の辞

永松健次国土交通省海事局次長代読

第47回追悼式が挙行されるに当たり、戦没・殉職船員の方々の御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

苛烈を極めた先の大戦においては、祖国を思い、家族を案じつつ、6万人余りの船員の方々が尊い命を失われました。戦後も、海難事故や労働災害により2千9百人を超える船員の方々がその職に殉じられるとともに、東日本大震災においては、海と共に生きる多くの方々が犠牲になりました。

今日、私（わたくし）たちが享受する平和と繁栄は海とともに生きた多くの方々の尊い犠牲の上に、築かれたものであります。祖国の未来を想い、蒼海（そうかい）に眠る船員の御霊の御前（おんまえ）で、恒久の平和と海上交通の安全に全力を尽くして参りますことを、改めてここに固くお誓いいたします。

ご遺族の皆様の深い悲しみに思いを致すとともに、戦没・殉職船員の方々の永久の安らかな眠りを心からお祈りします。

献花を捧げる

海上自衛隊横須賀音楽隊による鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」がおごそかに演奏される中、献花が行われた。顕彰会を代表して芦田昭充会長（写真①）に続いて、ご遺族を代表して戦没船員遺族の、三宅　豊さんと中川千鶴子さん、殉職船員遺族の福本健治さんと大澤朝子さんが白菊を捧げた。（写真②）

献花を捧げる芦田会長

左から、ご遺族の大澤さん、福本さん、中川さん、三宅さん

◎来賓・各界代表献花者（敬称略）

三宅　豊（戦没船員遺族代表）
中川千鶴子（戦没船員遺族代表）
福本　健治（殉職船員遺族代表）
大澤　朝子（殉職船員遺族代表）
髙木　義明（海事振興連盟副会長衆議院議員）
衛藤征士郎（海事振興連盟会長衆議院議員）
漆原　良夫（海事振興連盟副会長衆議院議員名代神田信浩）
永松　健次（国土交通省海事局次長）
小田　和之（日本船主協会副会長）
藤岡　宗一（日本内航海運組合総連合会審議役）
長岡　英典（大日本水産会常務理事）
森田　保己（全日本海員組合組合長）
酒井智代子（全国海友婦人会会長）
田神　明（横須賀市副市長）
関矢　博己（神奈川県横須賀土木事務所長）
小山　晃伸（神奈川県浦賀警察署長）
杉本　孝幸（海上自衛隊横須賀地方総監部幕僚長）
國分　良成（防衛大学校長）
大根　潔（海上保安庁第三管区海上保安本部長）
加藤　昌平（国土交通省海難審判所長）
長南　賢司（運輸安全委員会事務局横浜事務所長）
遠藤　誠之（日本海事センター常務理事）
竹内　俊郎（東京海洋大学長）
久門　明人（海技教育機構理事）

◎式電をいただいた方々（敬称略）

前原　誠司（衆議院議員）
漆原　良夫（公明党中央幹事会会長衆議院議員）
片山虎之助（参議院議員）
定塚由美子（厚生労働省　社会・援護局長）
村川　豊（防衛省　海上幕僚長）
武田　廣（神戸大学長）
林　祐司（鳥羽商船高等専門学校長）
井瀬　潔（弓削商船高等専門学校長）
山内　守武（福岡海寿会会長）

左から永松さん、神田さん、髙木さん、澁谷さん

左から長岡さん、藤岡さん、小田さん

左から森田さん、酒井さん

左から小山さん、関矢さん、田神さん

左から大根さん、國分さん、杉本さん

左から久門さん、竹内さん、遠藤さん、長南さん、加藤さん

浦賀水道を行き交う船を望み、献花する参列者の皆さん

参列した皆さまのお話し

■高橋柳子さん（戦没船員遺族）

父から、祖父は日本でも早くに船長になり、戦争中船ごと徴用されて亡くなったと聞かされていました。戦死の公報が来ただけで、遺骨も遺髪もなく、祖母は祖父が生きていると信じ、方々を探し回ったそうです。

会社の友人が靖国神社から大久保一郎画伯の遺作展「戦時徴用船の最期」のチラシを持ち帰ったことがきっかけで、日本殉職船員顕彰会に祖父のことが少しでも分かればと問い合わせました。調査の結果、祖父は遺作展のチラシに描かれた大阪商船の「ぶらじる丸」（1万2752総トン）に便乗し、戦死したと思われることが判明し、初めて追悼式に参列しました。これまで皆様が祖父をはじめ戦没した船員の方々を慰霊してくださっていたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

祖父は救命ボートには乗らず、船と運命を共にすることを選択したのだと思います。「ぶらじる丸」には多くの便乗者が乗船していました。沈没の際、10代の若者3名が、漂流していた女性に救命ボートの席を譲り、海に沈んだそうです。祖父やこの若者たちは「自分よりも他人の命を優先した」のです。この事実を知り、私は「日本人であることをもっと誇りに思いたい」と感じました。

友人が持ち帰った1枚のチラシから祖父の最期を知ることができました。あまりの偶然に驚くばかりです。私は、こうして私が語ることを祖父が望んでいるような気がします。祖父は情け深く優しい人だったようです。あの戦争で、自分を犠牲にして他人の命を守った祖父や若者たちのような人がいたこと、多くの船員や若者たちが亡くなったことを現代の人に伝えてほしい、そして多くの人に何かを感じてほしい。それが祖父から私に託されたメッセージのように感じています。

これまで慰霊していただき、祖父も天国から御礼を申し上げていることでしょう。会ったこともない祖父ですが、ようやく祖父に近づけたようです。「おじいちゃん」と話しかけて、冥福を祈りたいと思います。（談）

■林　玲子さん（戦没船員遺族）

母の兄（叔父）が大阪商船の玉津丸に乗船して戦没。長男で戦争に行き、乗ってすぐに亡くなった。今回は母の妹（叔母）の体調が優れず、参加できないので、一人で初めて追悼式に参加した。母から叔父の話を聞かされていたが、叔父は18才～19才で結婚もできずに亡くなったことを母は悔やんでいた。

■小山田博さん（94歳・戦争体験船員）

元三井船舶の船員です。第一短期高等海員養成所（神戸）の航海科第一期を卒業して船員になりました。卒業は昭和16年10月。開戦の年でした。卒業後すぐに「白馬山丸」、「秋葉山丸」と乗船し、昭和19年に三等航海士として「那岐山丸」（4391トン・貨物船）に乗船しました。同船はボルネオ島のバリクパパンでガソリンを積み、ラバウル向け輸送中でした。

3月30日、パラオ入港中、大空襲を受けました。私は船長とともにブリッジ（船橋）にいました。すさまじい機銃掃射により積み荷のガソリンに引火。船は火の海に包まれました。火の勢いが激しさを増し、船長の判断で全員が船を退去しボートに乗り移った後、船は爆発、沈没しました。私たちは付近の小さな島の洞窟に避難しました。この時2名の船員が犠牲となりました。

その後、同年10月に「第七蓬莱丸」（834トン・タンカー）に一等航海士として乗り組みました。「那岐山丸」では三等航海士だったのに、わずか半年後には一等航海士なったのも、当時は本当に船員が不足していたからです。同船は速力の遅い小型船でしたので、6～7隻で船団を組んで航行しました。インドネシア・カリマンタン島の近くのタラカンを10月25日に出港。「血の一滴」といわれた石油1425トンを積んでマニラ向け航行中の11月1日、昼頃に敵機の攻撃により被雷し、ミンドロ島西岸マンブラオ付近で沈没しました。四方八方に魚雷攻撃を受けて、船団を組んでいた船は粉々になりました。船長がけがをしたほか、10名の船員が犠牲となりました。幸い私は無事でした。

この直前、レイテ沖海戦によって日本は戦艦「武蔵」など多くの戦艦や航空母艦などの船艇を失ったのです。

その後私は「戸上山丸」に乗船し、戦後は船を下りましたが、追悼式には毎年出席しています。海に散っていった仲間たちが安らかに眠れるように、平和の海を願っています。（談）

■水野　孝さん（87歳・戦争体験船員）

函館普通海員養成所を卒業して、日本海汽船の「月山丸」（5415総トン・貨物船）に乗船し、昭和19年10月22日、マニラに向けて門司港を出港しました。昭和4年7月生まれの私は当時15歳で、見習い機関員でした。

当時私は、「煙当番」として見張りについていました。黒い煙を確認すると、ボイラー室に連絡するのです。船は38隻が船団を組んで航行中でした。24日の午前4時ごろ、周囲はまだ真っ暗ななかで先を行く船が雷撃されました。捕鯨母船の「図南丸」だったと記憶しています。

バーンと大きな音がして振り返って見ると、火柱が立って、あたりが赤々と照らされていました。一瞬「花火よりきれいだな」と感じたのを覚えています。船は高い火柱を上げながら轟沈しました。一方、乗船していた「月山丸」には約4千人の兵員が乗船しており、船内は騒然としていました。私は、何故か尿意を催して、トイレに向かいました。その後本船の見張りが敵機を発見し、本船が右へ舵を切った瞬間、船尾付近に魚雷が命中しました。

視界が上下・左右に大きく揺れ、目を開けていられないほどの衝撃でした。壁には人の肉片や腕が叩き付けられていました。魚雷が命中した居住区では、当直明けの船員たちがくつろいでいたのです。私は奇跡的にかすり傷一つ負いませんでした。

本船はこの被雷により大破したものの、沈没は免れ、「神福丸」に曳航され、韓国・済州島に接岸し、乗船部隊を下船させました。兵員23名、船員17名が犠牲となりました。

なぜ自分が生き残ったのだろうと、今でも思います。何か役割があるとするならば、戦争体験を語る「語り部」として残されたのかもしれません。当時、私のような少年船員が数多く犠牲となりました。毎年、追悼式に参列して海に散った仲間たちの冥福を祈っています。二度とこのような悲劇を繰り返さないために、私の体験が役に立てば幸いです。（談）

■東野清一さん（88歳・戦争体験船員）

昭和3年生まれで、16才の時に少年船員として5700トンの白陽丸に乗船しました。

昭和19年の10月23日に出港して、海軍兵2800人と船員200人の3000人が乗船し、オホーツク海を航行。2日後の10月25日の朝7時45分、見張りをしていた時に魚雷攻撃を受け、風雪の時化の中、周囲は火の海となり、幸いにもボートを見つけ、乗り込んで漂流した。7隻あったボートのうちの1隻で、ボートを見つけてもらい救助されたが、後に生存者が10人であったと聞かされ、3000人が亡くなったことに驚いた。定年まで船員として勤めることはできたが、戦争は二度とやってはいけない。

■大矢秀二さん（87歳・戦争体験船員）

昭和4年生まれ。14才の時に6700トンのタンカーに少年船員（機関員）として乗船。船員は35人で、31人の便乗者は甲板上で寝ていた。8000トンの重油を積んでいて、9ノットで航行中、11月3日の夜中の零時に被雷し、20分ほどで船は沈没。

海は油まみれで、浮遊物につかまって、救助されたが、3人の船員が亡くなり、そのうちの一人は同じ年頃の船員。自分は3カ月ぐらいの乗船だったが、日本に帰ってきてから、父親の反対で船員としての乗船は断念した。亡くなった船員が可哀想で、毎年、慰霊に来ている。

能楽「海霊」奉納

第47回追悼式場で能楽「海霊」を、晴天のもとに奉納した。

能楽「海霊」は、戦没船員と生死を共にされた、宮越賢治船長が御霊の鎮魂と功績を後世に継承するために作詞され、自らシテ（主役）となって昭和46年5月6日の第1回追悼式で奉納されました。

宮越船長は、昭和61年に亡くなられましたが、以来今日まで観世一門により、途絶えることなく継承され、奉納が続けられています。

戦没・殉職船員追悼式は関係団体と個人協力者の支援で運営されています

追悼式典の運営には大勢のボランティアによるご支援が欠かせません。第47回追悼式には、海事関係15団体36人と個人協力者8人に顕彰会スタッフ4人を加えた48人が携わりました。

追悼式前日は、雨がぱらつく空模様で、天候を心配したが、当日は強い日差しと暑さにもかかわらず、これまでの経験が生かされ、大きな混乱もなく滞りなく挙行しました。皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝いたします。

今回も実行委員の皆様から、次回につなげるご意見・要望がよせられました。その一部を紹介します。

実行委員の皆さん

■**藤田信輔さん**（東京海洋大学）

今回の追悼式で3回目となり大学生ながら、新人というより経験者としての立ち位置となりました。

過去2回は入口担当で、式典中の様子を感じることや参列者の方々と話すことはあまりありませんでした。今回は遠くからではありますが、厳かな会場の空気を感じることや参列者の方と話すことができ、忘れることができない追悼式になりました。

たまたま、大学の二つ上の先輩のお母様に話しかけていただき、伺った話がとても印象的でした。先輩の曾祖父様は戦時中、先輩が今働いている会社で船乗りをされていて、殉職されたそうです。先輩は昨年どんな情景を胸に実行委員をされていたのか、どのような思いで船乗りになったのか、と思いを巡らせてしまいました。

今回、私が担当した部署では誘導に手間取り、参列者の方々や他の実行委員にご迷惑をおかけいたしました。そんな中でも、ご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。

■**水戸崇允さん**（東京海洋大学）

私が追悼式を通して一番感じたことは、「大人数の人が全体を効率良く回せるように作業をしている」ことでした。当日の朝から何10人もの人がまんじゅうを箱に積めたり、設営をしたりなどをしていましたが、その途中で何処かの作業が極端に滞ることは殆どありませんでした。事前に渡された要項で各々の仕事が効率良くなるように配置されていたことが大きな要因なのではないかと私は思います。

また、追悼式の参加者はやはり年配の方が大部分を占めているように思われました。この先1年、2年ならばまだ問題はないと思いますが、5年、10年経ったときに、果たしてどれだけの人が追悼式に参加することになるのか、少々不安に感じました。どうしても戦後からかなり後の世代の人には馴染みが深くないので参加者の年齢層が高くなっていくのは仕方のないことなのかもしれませんが、それでもこの追悼式を存続させていく上で、若者が目を向けるような何かは今後必ず必要になると、私は思います。

■**小林悠登里さん**（東京海洋大学）

今回は2度目の追悼式への参加でした。昨年初めて参加させていただいたことを思い出しながら、1年というのはすぐに巡ってくるなというふうに感じています。

今回は式典の案内準備の段階から少しお手伝いをさせていただきましたので、昨年よりも少し余裕をもって式典に臨むことが出来ました。

式典の進行については変更された部分もありましたが、その中で、式典自体の雰囲気は昨年と変わらず穏やかであると感じました。変わらない、というのは変化の激しい時代の中でとても意味のある、そして実現し難いことだと思います。

一方で、今年はたくさんの後輩たちと共に追悼式に参加しました。私自身は今後活動の中心になる機会は少ないかもしれませんが、追悼式を経験して彼らがそれぞれ感じたことを、今後も次の世代に引き継いでいってくれればいいなと思っています。

年に1度、戦時から現在まで続く多くの船員の貢献と活躍に想いを馳せ、また平和に対する決意を新たにする節目として、追悼式のもつ重要性はとても大きなものであると感じています。

亡くなられた船員の方々に対する記憶と遺族の方々の想いが、これからもこの式典を通して変わらず残っていくことを切に願います。

▼横須賀海洋少年団（8人）▼東京海洋大学海事普及会（8人）▼全日本海員組合本部（4人）▼全日本海員組合関東地方支部「海友会」（2人）・「木洋会」（2人）▼日本内航海運組合総連合会（2人）▼日本船主協会（8人）▼大日本水産会▼全日本船舶職員協会▼日本船舶機関士協会▼日本船長協会▼日本海事広報協会▼日本水先人会連合会▼海技振興センター▼海洋会、以上各1人▼個人協力者（8人）に顕彰会（4人）が加わり、48人で実行委員会を構成しました。（順不同）

「戦没船員の碑」広場

■**曽我部夏美さん**（全日本海員組合）

今回、私は初参加でしたが、式典中のリボン係や実行委員内での受付、お弁当配布等多くの仕事に携わることができましたこと大変ありがたく感じております。

式典につきましては、ご参列者の参加人数また式典の内容は同じ船関係の団体に所属する身としては恥ずかしい話ではありますが、私の想像を遥かに超えており、大変驚きました。また、ご参列頂いた皆様が険しい道の中お越しになられたこと、さらに天候に恵まれましたが、非常に暑い中、ご参列して頂いた姿を見て、この式典の重要性を身に染みて感じました。

この先、ご高齢の方が増えていく一方でありますが、私の中で今回の経験も踏まえて、式典をよりよくしたいと感じました。特別目立つ役割ではありませんが、その中でもいかに不便に感じさせないか、スムーズに式典を終えることができるかを、来年度もし実行委員として参加することができるのであれば考え、行動に移していきたいです。

綿密に打合せをする海洋少年団の皆さん

■**大澤朋子さん**（個人協力者）

初めて記録係として実行委員として参加させていただきましたが、実行委員会から始まり、前日、当日と周到な準備の下で追悼式および懇親会が挙行されていることを知り、事務局ならびに実行委員の皆様のご尽力に敬服いたします。

この度は初めて戦争体験船員の方のお話を伺うことができました。終戦から70余年、当時少年船員として乗船していた方も90歳近い年齢となりました。こうした方からお話を伺う機会は今後ますます貴重になることでしょう。戦火の海で武器を持たない数多くの船員たちが犠牲になった事実に耳を傾け、後世に伝えることは、現代を生きる者の務めと感じます。

また、大久保画伯の遺作展「戦時徴用船の最期」をきっかけに肉親の最期を知ったという遺族の方のお話も伺いました。

6万余人の船員たちが犠牲となったあの悲劇を二度と繰り返さないために、追悼式や遺作展といった地道な活動を通して、多くの人に訴え続けることが大切と、改めて感じています。

参列者がお帰りの時、白菊を手渡す東京海洋大学海事普及会の皆さん

戦没・殉職船員の御霊に献杯

5月とは思えない強い日差しの中で執り行われた追悼式を終えて、参列者はマイクロバスで、また足腰の健康な方々は汗だくになりながら徒歩で懇親会場の観音崎京急ホテルに移動し、目の前に広がる浦賀水道航路を行き交う船を眺めながら恒例の懇親会を開催した。

懇親会では、日本殉職船員顕彰会の芦田昭充会長のあいさつに続いて、永松健次国土交通省海事局次長により「御霊の安らかならんこととご遺族の末永いご健勝を祈念して献杯」のご発声により、遺族の方々をはじめ関係者らがテーブルを囲んで、和やかに歓談のひと時を過ごした。

懇親会であいさつする芦田会長

永松国土交通省海事局次長の献杯のご発声により和やかな懇親会がはじまった

終戦記念日献花式

終戦記念日（8月15日㈫）に観音崎公園「戦没船員の碑」で献花式を行います。ご案内するのは、当会役員など約60人ですが、どなたでも参列することができます。参列される場合は、バス等の関係から顕彰会に必ずご連絡ください。

▽午前11時20分観音崎京急ホテル集合▽同30分マイクロバスで戦没船員の碑へ▽同50分慰霊碑の献花台前に整列▽「全国戦没者追悼式」のラジオ実況放送に合わせて総理大臣式辞▽12時黙とう、戦没船員の御霊を追悼し、海洋永遠の平和を誓います。▽同02分天皇陛下のお言葉を聞き、閉式。マイクロバスで観音崎京急ホテルへ戻って昼食・解散となります。

服装は、白ワイシャツに黒ネクタイの軽装でお願いします。

例年、役職員のほか、海事関係者や当会役員経験者など40人余が参列し哀悼の誠を捧げます。

お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会
電話　03-3234-0662

戦没船員の功績等の調査　事例紹介

本会の事業の一つに戦没船員の功績等の調査があります。先の大戦において戦時徴用船で輸送業務にあたり、尊い命を犠牲にされた戦没船員は分かっているだけで6万643人にのぼり、横須賀市の神奈川県立観音崎公園にある「戦没船員の碑」には浄書した名簿が奉安され、毎年5月中旬の追悼式典で戦没・殉職船員の慰霊を行っています。ご遺族をはじめ親類縁者や関係者の中には、いまだ知らない方々も多く、戦没の状況まで知っている方は、さらに少ないといえます。本会は、こうしたご遺族の方々からの問い合わせにお応えし、調査情報の提供を日常の業務として行っています。その中から本号でも事例のいくつかを紹介します。

■**男性（北海道）**

昭和19年3月20日鳥島付近で潜水艦の魚雷攻撃で撃沈した「白鷹丸」で祖父が戦死したと聞いているが、照会可能でしょうかと、メールで問い合わせがあった。

【回答】

おじい様は、当会の戦没船員名簿に登録され、「戦没船員の碑」に、ご芳名と没年月日を浄書した名簿を奉安しております。当会のデータでは、職名は不明となっております。

「白鷹丸」は農林省所属で水産大学（東京水産大学は昭和25年文部省所管となる。現在は東京商船大学と統合し東京海洋大学。）の練習船で、特設駆潜艇として海軍に徴用され、昭和19年3月20日、父島から横須賀に向け航行中、小笠原鳥島付近で、米潜水艦「Ｐｏｌｌａｃｋ」の魚雷攻撃により沈没し船員28名が戦死されています。資料を送付いたします。

【お礼】

業務多忙に関わらず早々に調査回答を頂き誠にありがとうございました。私の父親その兄弟全員が海軍に従軍し長男は、一時大和に乗船していたとも聞いております。その兄弟全て終戦後、外国航路の船乗りになっております。既に亡くなった父親も祖父のことを言わなかったので恥ずかしながらこの年まで祖父の戦死の状況を知らずで、今回初めて知ることになりました。そして、戦後70年以上に渡り、戦没者の御霊をお守りくださり誠にありがとうございました。少し、祖父に近づいた感じがして感無量です。

■**女性（東京都）**

祖父は、川崎汽船の船長で軍属でした。昭和18年5月気仙沼沖或いは金華山沖で戦没したと聞いております。もし祖父に関する資料が貴会にありましたら、閲覧かコピーのご提供をお願いできますでしょうか？

【回答】

おじい様は、当会の戦没船員名簿に登録され、ご芳名を浄書した名簿が奉安されています。

当会等の資料によりますと、おじい様が船長として乗船されていた、太南丸（大興汽船所有、貨物船）は、昭和18年5月26日、福島県塩屋崎沖で、米潜水艦の魚雷攻撃により沈没しています。この遭難時に乗組員が戦没4名、行方不明23名（戦没）となっております。

大興汽船は、川崎汽船の子会社で、太南丸の乗組員はおそらく川崎汽船から派遣されていたものと思われます。資料は郵送いたしますのでご査収ください。

【お礼】

この度は、祖父の殉職についてお調べ頂き、貴重な情報をご提供下さり、誠にありがとうございました。

おじい様の3女が現在87歳の私の母ですが、病床にて会話ができない状態で、祖父のことを詳しく聞く機会もなくなっていたところ、新聞で貴会のことを知りお尋ねした次第です。

毎年5月の追悼式にもできれば参加したく存じますので、時機が来ましたら、詳細をお知らせ頂けると幸いです。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

■**男性（東京都）**

叔父が昭和19年3月戦死している。船名は八洲丸か八島丸か八雲丸だと思います。機関兵曹長で、ニューギニアのウエワク沖で戦死したと墓碑にあります。

より詳しいことが分かれば幸いです。よろしくお願いいたします。

【回答】

お問い合わせがありました、叔父様は、当会の戦没船員名簿に登録され、昭和46年、神奈川県立観音崎公園（横須賀市）に建立されました「戦没船員の碑」に、ご芳名と没年月日を浄書した名簿が奉安されています。

叔父様は、当会の戦没船員原票ならびに大阪商船三井船舶殉職・殉難者名簿によりますと、大阪商船所属の貨物船「八雲丸」（3，198総トン、陸軍徴用船）に二等機関士として乗船中、昭和19年3月19日、ニューギニア・アイタペ東方（南緯2度40分・東経143度40分、文献により差異がある）で米軍機の攻撃を受け戦没されています。

資料によりますと、この空爆により船員56名全員が戦死されています。資料を送付しますので、ご査収ください。

当会では毎年5月中旬に、「戦没船員の碑」（横須賀市）において、「戦没・殉職船員追悼式」を挙行しています。追悼式の案内をいたしますので、よろしければご参列ください。

遺児たちを守る支援制度

殉職船員遺族援護　遺児へ援護金を支給

日本殉職船員顕彰会の設立にあたって、『戦没船員の碑』が昭和46年に建立されてから10年間、戦没船員追悼式を毎年執り行っていました。この式典が戦没船員の追悼に限られていたことから、同じ海の職場に命を捧げた商船や漁船等の殉職船員の慰霊についても配慮してほしいとの要望が高まりました。

これを機に、すべての殉職船員に慰霊の誠をあらわし、その業績を顕彰するとともに、海洋永遠の平和を祈念するための『戦没・殉職船員追悼式』を国民的行事として行うことによって、国民の海洋精神の高揚を図り、海洋立国の認識を深めることを目的として、戦没・殉職船員の業績調査と、その功績を後世に伝え、戦没・殉職船員遺族の援護にあたるために、昭和56年4月に「戦没船員の碑建立会」の事業を継承して、財団法人として当会が発足しました。

当会の殉職船員遺族援護事業は、昭和58年に外航船13人・内航船7人の殉職船員遺児に対して給付が行われてから、平成2年の外航船59人・内航船63人・旅客船13人・その他9人をピークに漸減しています。

海難や労災事故はあってはならないことですが、殉職船員遺児援護制度を知らないために苦境におかれていては大変です。

個人情報保護の関係から事故情報が取りにくい社会情勢にあります。

船社や業界関係団体の積極的なご協力をお願いいたします。

返還義務のない制度

当会の殉職船員遺族援護事業は、商船などに乗船中、海難や労災事故で殉職した船員の遺児に援護金を給付する制度で、返還の義務はありません。

支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。支給期間は、遺児が生まれてから義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会（☎03・3518・6121）が援護事業を行っていますので、お問い合わせください。

殉職船員ご遺族からのお便り

本誌夏号では、殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介しています。

■織田　幸恵さん（広島県）

いつもお世話になっております。

主人が亡くなって2年目の夏がやってきます。我が家にとっては、命の尊さとまわりのみなさんとのつながりのあたたかさを感じる夏です。

朝陽は高校野球で、有瑠はスポ少のソフトボールでまっ黒に日焼けし、すてきな仲間がたくさんいます。パパも、でっかい声で応援しているかもしれません。

■大竹　初美さん（三重県）

いつもありがとうございます。

先日は、主人の十七回忌の法要を、執り行いました。主人の両親と私達三人でお参りしました。早や16年、色々ありましたが、元気で暮らせる事が何より、日々応援して下さる皆様、見守ってくれている主人のおかげと感謝の思いでいっぱいです。

■水野真由美さん（愛媛県）

元気にすごせています。孫が保育園に行きだして、いろいろな感染症をもらってきて、実家ですごす時間が長くなっています。でも家族がそろっている時間も長くなっているので、少しうれしいです。

殉職船員1名　新たに奉安

商船や漁船などに乗船中、海難や職務上の事故などで殉職された船員の調査は毎年行われ、ご遺族の了解が得られた方のご芳名と没年月日を浄書した名簿を「戦没船員の碑」に奉安し、毎年5月中旬に執り行われる「戦没・殉職船員追悼式」で御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を願って、祈りを捧げています。

全国にはまだ奉安されてない多くの方々がいるものと考えますが、個人情報保護の下で情報の入手が困難な事に加え、ご遺族の了解が得られないケースも少なくありません。奉安することにより、費用が発生することはありませんので申し出てください。

殉職された遺児（漁船を除く）に援護金を支給する制度があります。

戦没船員について、遺族の申出、調査により新たに戦没船員であることが判明した方は奉安しております。

本年4月17日、追悼式を前に、次の殉職船員のご芳名と没年月日を浄書した名簿を戦没船員の碑に奉安いたしました。

5月11日に執り行われた第47回戦没・殉職船員追悼式で全国から参列した方々から、鎮魂の祈りが捧げられました。

殉職船員
杉山　隆一　様（昭和33年5月23日没）

皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成28年12月1日以降、平成29年6月30日までの間に、次の方々に新たに賛助会員、協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費＝1口10万円、◎個人賛助会費＝1口1万円をお願いしています。

■協賛会員は「個人」にお願いしているもので、年会費は1口3千円です。

新たな賛助会員の皆様

（順不同）

○鶴丸海運株式会社（北九州市）○芦田昭充様（東京都新宿区）○菅原裕輔様（深谷市）

新たな協賛会員の皆様

○安藤益代様（東京都渋谷区）

追悼式献花料

（順不同）

○石須由美様（富山市）○大圖富美子様（水戸市）○小林義隆様（篠山市）○中村順子様（船橋市）○久山十造様（海老名市）○藤井靖子様（府中市）○川畑實恵様（明石市）○新田尚子様（宇部市）○髙野さよ子様（静岡市）○水野孝子様（新潟市）○山岸信一様（前橋市）○嶋田早苗様（八幡市）○中野昭男様（名古屋市）○桜井正様（千葉市）○西本久美子様（越谷市）○守田忠様（名取市）○山田淑子様（豊中市）○齋藤有美様（川崎市）○山藤浩子様（広島市）○高橋柳子様（成田市）○相馬晃様（札幌市）○中野幸枝様（気仙沼市）○小澤恒雄様（松江市）○村上菊野様（北九州市）○福本健治様（横須賀市）○濱田綾子様（海老名市）○今中智代様（神奈川県三浦郡）○全日本海員生活協同組合様（横浜市）○鴨居地区連合町内会様（横須賀市）○横須賀市東部漁業協同組合鴨居支所様（横須賀市）○鴨居三軒谷町内会様（横須賀市）○鶴丸海運㈱様（北九州市）○宮越和子様（佐倉市）○海員組合職員OB全国会様（東京都港区）○高等商船学校二期生会様（横浜市）○宮越健郎様（佐倉市）○宮越康郎様（佐倉市）○（一財）全日本海員福祉センター様（東京都港区）○日本内航海運組合総連合会様（東京都千代田区）○全国海運組合連合会様（東京都千代田区）○米山隆昭様（東京都北区）○（一財）日本船員厚生協会様（横浜市）○荒谷秀治様（横浜市）○（一財）船員保険会会長霜鳥一彦様（東京都渋谷区）○（一財）船員保険会常務理事中澤政光様（東京都渋谷区）○小林さかえ様（東京都目黒区）○松本三七一様（姫路市）○南洋海運株式会社様（藤沢市）○豊丸漁業㈲様（横須賀市）○住吉漁業㈱様（三浦市）○（一財）日本航路標識協会様（東京都千代田区）○（公財）海技資格協力センター様（東京都千代田区）○船主団体内航労務協会様（東京都千代田区）○（公財）水交会様（東京都渋谷区）○東郷会様（東京都渋谷区）○（一社）外航船員医療事業団様（東京都千代田区）○海翔会様（東京都港区）○三宅弘様（逗子市）○横浜海員会館様（横浜市）○福岡海寿会様（福岡市）○曽根幸雄様（横浜市）○小松和夫様（横浜市）○南七郎様（新潟県岩船郡）○五十嵐温彦様（大和市）○全国海員学校同窓会様（新座市）○金澤輝雄様（横浜市）○木村泰清様（逗子市）○鳥羽商船同窓会様（鳥羽市）○坂元茂昭様（赤穂市）○山下義韶様（神奈川県中郡）○上ノ山金夫様（横浜市）○佐藤利信様（富里市）○飯田喜久三様（東京都渋谷区）○多胡明美様（小金井市）

寄付金

（順不同）

○橋本進様（藤沢市）○小川芳吉様（村上市）○田子のぶ子様（上田市）○橋本正夫様（京都市）○藤井栄子様（上尾市）○三岳力郎様（千葉市）○岡靖晃様（横須賀市）○河﨑秀夫様（和泉市）○齋藤有美様（川崎市）○山下琥生様（東京都世田谷区）○小野寺功一様（気仙沼市）○藤田善範様（東京都大田区）○望月二朗様（横須賀市）○大森彰様（千葉市）

遺族援護寄付金

○海事思想普及研究会様（神戸市）

終戦記念日献花式供花料

○米山隆昭様（東京都北区）

戦時徴用船の最期　大久保一郎遺作展寄付金

○棚田郁様（札幌市）

安らかな眠りからさめようとするもの、立ち上がって遠く海原を指呼するもの、それらを慰め、あるいは鼓舞する人魚たちと風と波

会長が交代しました

芦田さんから朝倉さんへ

芦田昭充前会長

朝倉次郎新会長

平成29年6月27日開催された第15回定時評議員会で、役員（理事・監事）の任期満了により、役員の改選が審議のうえ決議されました。同日、改選された理事15人（新任３人、再任14人）、監事２人（新任１人、再任１人）により、第21回臨時理事会を開催し、代表理事・会長、副会長、業務執行理事を選任しました。

退任された前代表理事・会長の芦田昭充さん（商船三井相談役）の後任に、朝倉次郎さん（川崎汽船会長）が代表理事・会長に選任されました。

退任された理事は、芦田昭充さん（商船三井相談役）、小島茂さん（日本船長協会前会長）、福永昭一さん（日本水先人会連合会前会長）、監事は三尾勝さん（日本船員厚生協会前理事長）。

新たに就任した理事は、武藤光一さん（日本船主協会会長）、石橋武さん（日本水先人会連合会会長）、葛西弘樹さん（日本船長協会会長）、監事は冨永雄一さん（日本船員厚生協会常務理事）の４人の方々です。

評議員は、赤峯浩一さんから小山智之さん（日本郵船常務経営委員）、田中初穂さんから石川尚さん（日本船主協会常務理事）、根本正昭さんから加藤雅徳さん（商船三井常務執行役員）、古田幸信さんから戸摩辰雄さん（海技振興センター常務理事）に交代されました。

選任されました役員（理事・監事）ならびに評議員の方々の任期は、平成31年（２０１９）６月開催予定の定時評議員終結時までです。

47回追悼式の懇親会で歓談される
芦田前会長と朝倉新会長

海なお深く

～　徴用された船員の悲劇　～

全日本海員組合　編

【上巻】定価　2,700円（税別）
【下巻】定価　2,700円（税別）
【上巻・下巻＋DVDセット】定価　4,500円（税別）

全日本海員組合は、組合活動の一環として、この度、書籍『海なお深く - 徴用された船員の悲劇』（成山堂書店）を刊行し全国の書店で一般販売します。

本書は、1986年（昭和61年）に収集した太平洋戦争当時の船員の体験手記を上巻・下巻にまとめて再編集したものです。

戦後70年を過ぎ、戦争の悲惨さを語り継ぐ方々も少なくなってきましたが、太平洋戦争では多くの船舶が撃沈され、6万人余の民間船員が戦没しました。強制的に徴用された船員のなかには、いまの中学生と同年代の14、15歳の少年たちも数多く含まれ、その命が失われました。この痛恨の体験から、私たち船員は何よりも海の平和と安全を願うものであります。

本書に関する問い合わせは

全日本海員組合　政策局　総合政策部
TEL　03－5410－8327
FAX　03－5410－8337